

19 デジタル人材育成研修					【合同研修】
目的	自治体におけるDXの進め方について、基本知識を学び、本来目指す業務の姿について再確認することなどを通じて、自治体DX推進の実現に向けた考え方を身につける。				
内容	(1) 自治体におけるデジタル変革を学ぶ。 (2) サービスデザインの観点を取り入れ、課題や状況に合わせて対応できる考え方を養う。 (3) 演習を交えて、問題やニーズを把握し、今後の行動変容を促す。				
実施年月日	令和6年 8月20日(火)	定員	48名(市町村職員30名 県職員18名)		
対象者	(市町村) 受講を希望する職員 (県) 中堅・係長級キャリアアップ研修対象者で、受講を希望する職員				
実施場所	大分県自治人材育成センター				
推薦期限	令和6年 7月19日(金)	《第9回》	経費内訳	内訳表1	
指定ホテル	-		その他留意事項	-	
研修講師 (プロフィール)	【一般社団法人シビックテック・ラボ代表理事 市川博之(いちかわ ひろゆき) 氏】 デジタル庁オープンデータ伝道師/総務省地域情報化アドバイザー 開発エンジニア、コンサルティングファームを経て現職。 東京造形大学の特任教授としてデザインを教える傍ら、自治体へのICTコンサルティング・オープンデータ活用や、市川電産CEO・一般社団法人シビックテック・ラボ代表理事として民間企業へのITシステム全般のコンサルティング・開発・情報利活用研修を行っている。				
受講者の声	事前課題の内容が講義を受けながら何度もブラッシュアップし、少しずつ完成されている感覚がありました。確実なスキルアップを実感できた。 デジタルという言葉聞き、どのように今のデータを活用していけば良いのかという研修になるかと思っていたが、いい意味で違っていた。業務を分析し、フローを作り、分析、ECRSするなど、見方、考え方を考えることの重要性を学ぶことができた。 単にシステムを導入することがDXではなく、今の時代に即した業務へ転換することが重要であると学べた。そのための手法である従来の業務フローを整理し課題を見つける手順や、市民と行政双方にとって目標を達成できる業務転換のマインド形成を、研修の中で実際に行うことができた。特に業務フローの作成スキルは、自分の業務整理だけではなく組織で共有する際にも役立つものであるため、積極的に業務で実践していきたい。 これまでは業務の中のデジタル化できそうな部分を探すという考えでしたが、事業全体をデザインするという考え方を学び、DXに対する解像度が上がった。講師が私たち公務員に身近な例をあげて説明してくださったので理解しやすかった。デジタル化の手法ではなく意識を学ぶことができたので他の職員にもすすめたい。				
備考	※事前課題あり R5年度は政策・施策立案系ではなく日常行っている業務に対しての課題を設定した。				

時間割									
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
	850	20	30					15	
1日目	受付	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> DX概要 サービスデザインとは データ化、デジタル化、そしてDX 目標から再設定しよう 	昼食		<ul style="list-style-type: none"> あるべき姿の全体像 提案の発表とフィードバック 複数の価値を出してQoSの向上をはかる 多角的観点を使ったレビュー 質疑応答 		閉講	

※上記内容は、研修実施時に変更されることがありますので、予めご了承ください。